

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

| | |
|-----------------|---|
| 1. 事故・ヒヤリハットの別 | 事故 |
| 2. 体験した事例の名称 | 救急活動中、市民から暴行を受けて隊員が受傷した事案 |
| 3. 体験した事例の中心的要素 | 救急活動現状において、路上に寝ていた不穏状態の市民が起き上がり暴行を働き、隊員が受傷したもの。 |
| 4. 体験した事例の原因・理由 | てんかん発作の既往歴がある市民に近づき過ぎたため |

【体験した事例の直接的原因について】

| | |
|------------------|------------------------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。) |
|------------------|------------------------------|

【体験した事例について】

| | |
|----------------------------------|----------------|
| 1. 発生日時 | 令和5年9月1日 午後7時頃 |
| 2. 発生した当時の天候 | 晴れ |
| 3. 発生した活動現場 | 屋外：店舗前歩道上 |
| 4. 体験した事例の種類 | 他人が、回答者を負傷させた。 |
| 5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度) | 軽傷の怪我 |
| 6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか) | その他：市民からの暴行 |
| 7. 事例体験時の活動 | 救急現場到着 |
| 8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか | 応急処置 |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 初めて体験した |

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



| | |
|-------------------|--|
| ○当事者A | 年齢[46]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[20]年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員] |
| ○当事者B | 年齢[50]歳、勤続年数[24]年、現場経験年数[24]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [初めて]、任務 [車長] |
| ○当事者C | 年齢[28]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [機関員] |
| ○その他(当事者が4人以上の場合) | D (支援隊隊長) |

11. 事例発生の経過。



| | 誰が(何が) | なにをした | その他・備考など |
|------|--------|---------------------------------------|-------------------|
| 経過1 | A・B・C | 事案出動 | |
| 経過2 | A・B・C | 現場到着。歩道上に仰臥位の市民と接触 | 市民の痙攣は治まっていたが不穏状態 |
| 経過3 | A | 頭側から近寄ったAに対して市民が急に起き上がり顔面両頬部平手打ち | BはAに対して退避するよう指示 |
| 経過4 | A・B・C | 1歩引いたところから半坐位の市民に声掛け実施。 | |
| 経過5 | A | 市民が路面に頭を打ち付けようとしたため制止。 | |
| 経過6 | A | 制止しようと近づいたAに対して顔面両頬部平手打ち1回、拳で鼻先を殴打1回 | |
| 経過7 | B | 指令係に警察官及び支援隊要請 | |
| 経過8 | B | 指揮隊長に有線報告 | |
| 経過9 | D | 追加出動の支援隊長がA・B・Cの負傷がないことを確認後、指揮隊長に有線報告 | |
| 経過10 | A・B・C | 市民が頑なに病院受診を拒否するため不搬送となる | |
| 経過11 | | | |
| 経過12 | | | |

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

| | |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 | はい |
| ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | いいえ |

c. 経験・知識が不足していた。

| | |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | いいえ |

d. 心身の不調があった。

| | |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

| | |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g. 行動しにくい環境だった。

| | |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。 | いいえ |
| ・暑かった(寒かった)。 | はい |
| ・野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

| | |
|------------------|-----|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。 | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

| | |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。) | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。 | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。) | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・隊員が不足していた。 | いいえ |

○その他

l. その他の理由があった。

| |
|--|
| |
|--|

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

不穏状態等の市民に対しては、早期に警察機関や指揮隊及び支援隊を要請する等、接触方法を検討し、支援隊が到着するまでは容易に近づかないようにすること等を署内で共有した。

○装備・資機材の対策について

刃物等を所持していれば防刃チョッキの着用

○活動環境の対策について

通行人に危害が及ぶ可能性があれば、人気のない場所への移動が必要

○指揮・情報伝達の対策について

この市民に関しては、過去にも不穏状態の際に暴力行為を周囲の人に行っていたことや、今回の事故事例の件から、今後同じ市民への対応をする際に注意できるようにあらかじめ同市民への情報を共有しておく。

様式1 9. 事故発生状況再現写真

